



平松 昭徳
市民クラブ



脱炭素先行地域に応募すべきと思うが、どのように考えているか

応募し、国の支援を積極的に活用していきたい

カーボンニュートラルについて

問 2050年までに本市の温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする「たはらゼロカーボンシティ」表明の狙いは。

答 これまでの地球温暖化対策の取り組みを加速させ、より強力に取り組む契機とすることを目的とし、カーボンニュートラルの実現を目指す。

問 国・地方脱炭素実現会議が公表した「地域脱炭素ロードマップ」では、100カ所の脱炭素先行地域を創出し、集中的に支援することが示された。本市もこの脱炭素先行地域に応募すべきと思うが、どのように考えているか。

答 「たはらエコ・ガーデンシティ構想」に掲げる「環境と共生する豊かで持続する地域づくり」を推進するため、脱炭素先行地域に応募し、国の支援を積極的に活用していきたい。

問 本市における電動車の普及についての考えは。

答 脱炭素化に寄与すること、動く蓄電池として災害時の非常用電源に活用できることなどから、普及に向けて積極的にPR等をしていきたい。

問 再生可能エネルギーの導入促進について、今後の展開は。

答 現在も、バイオマス発電や風力発電などの施設を建設する予定や計画があるが、今後の展開については、「たはらエコ・ガーデンシティ推進計画」を見直す中で導入促進策を検討していきたい。

問 カーボンニュートラルに関する市民への意識啓発は、どのように行っていくのか。

答 ホームページや広報たはら、啓発イベントや講演会開催などを通じた情報発信はもとより、計画改定における会議に参加される地域の企業や住民代表の方々などからも啓発の輪を広げていただく。



問 介護予防活動に高齢者自身が取り組んでいくための市の支援策は。

答 自宅で簡単に取り組めるよう、体操や健康管理ができるスマートフォンアプリの無料アプリケーションの紹介や、高齢者向けの情報を広報紙で紹介している。今後は、介護予防体操の動画の配信や、体を動かすことの効果や必要性の説明を行うなどの取り組みを進めていく。

問 高齢者の多様な活躍の場を考える上で、有償ボランティアより少し多くのお金を受け取れる活動があってもよいと考えるが、市の考えは。

答 これまでになく様々な有償ボランティアや売り上げが見込まれるグループ等の活動は、高齢者の多様な価値観に応え、生きがいにもつながるため、高齢者の活躍の場を広げるものとして必要であると考えている。

問 高齢者の社会参加促進に向けた取り組みとは。

答 高齢者の活動ニーズや活動できる場所の情報を収集し、有償ボランティアなどの活動と意欲のある高齢者とのマッチング等、新たな仕組み作りを検討していきたい。

